



料理教室 ～パウンドレモンケーキ、塩レモン、手羽先の塩レモン煮～

- ◆日 時 3月19日(土)
午前9時10分、午後1時30分
- ◆場 所 文化センター調理室
- ◆参加費 500円(当日徴収)
- ◆申込方法 3月11日(金)までに氏名、電話番号、希望時間をご連絡ください(定員10人)
- ◆持参物 エプロン、三角巾、マスク、タオル、保冷バッグ
- ◆申込先 地域おこし協力隊(農業振興課内) ☎52-5854



梨の木や、イ草、イチゴなど、町の特産品などを使って染め物をしました。染め物は、明ばんや石灰水、鉄水で止め、染液に3回漬けて色を濃くします。役場本庁舎のベビーベットのシートを染めたり、竜北中学校の起業体験でトートバッグ、ハンカチ、巾着などを3年生と染めて販売したりしました。そのほか、子ども会ではイ草で染め



地域おこし協力隊活動レポート ⑮



▲地域おこし協力隊インスタグラム

た布でくるみばたんを作りマグネットにし、スパンコールやイ草で飾り付けました。染め物をする際、さらに見本を作り、誰でも見やすくなるためにスクラップブックにまとめました。スクラップブックを見てみたい人や染め物に材料を提供してくれる人は農業振興課までご連絡ください。

「人が尊重され、生きがいを感じるあたたかい町」

人権啓発コーナー

新型コロナウイルスが再び猛威を振るい、急速に拡大しております。今回のウィルスは潜伏期間が短く、感染拡大が早いのが特徴のようです。誰も感染したくないものですが、そのような状況になっても、感染した人やその家族に対して、不当な差別、偏見、誹謗中傷はやめましょう。さて、3月は社会生活の中において変わり目の時期です。

学校・会社・地域など、生活している所で変化があります。困った時は1人で悩まず家族・知人・友人・同僚などとコミュニケーションをとり、新しい生活をスタートしてみたいかがでしょうか。互いに励まし合い「人権が尊重され、生きがいを感じるあたたかいまちづくり」を推進しましょう。



人が尊重され、生きがいを感じるあたたかいまちづくりをめざして



問 生涯学習課 生涯学習係
☎52-5860

八火図書館 だより

今年度も残りわずかとなりました。この1年間、みなさんの読書生活はいかがでしたか。これから本に触れる機会を絶やさず過ごしていただければと願っています。生活の中に読書を取り入れて、日々の暮らしをより豊かなものにしていきましょうか？

館内紹介

「雑誌コーナー」
料理や園芸などのテレビテキストをはじめ、貸し出しを行っており、バックナンバーもあります。図書とは別に、2誌まで5日間借りることができます。

新着図書おすすめの一冊

同志少女よ、敵を撃て

(早川書房)
第二次世界大戦の中でも、その過酷さで知られる「独逸戦」。ドイツ軍とソ連軍を合わせて200万人以上の死者を出した戦いに、若い女性たちが構成された小隊があった。女性狙撃兵たちが「敵」として見なしたのは誰だったのか。
第11回アガサ・クリスティー賞大賞受賞作



問 八火図書館 ☎62-3489

町民文芸

短歌

この道は散歩のために作られし
そう思いつつ新道歩く
西上宮 村内 一誠
三月の三神宮にみくじ引く
大吉なりし啓蟄の空
北野津 井田 道寛
カーテンを開ければ見ゆる西の空
夕日あかあか明日も晴れる
西野津 古崎スエノ
初顔の曾孫の仕ぐさ愛らしき
燥ぐ笑顔の客の日よ
西野津 古崎 栄子
コロナ禍を恐れマスクの生活に
慣れて生きるも息苦し
吉本 高橋 澄子

俳句

梅開くあかしろしだれ乱れ咲く
西上宮 村内 一誠
インドより旅路の果てか涅槃西風
北野津 井田 道寛
オミクロン貧けるものかよ鬼は外
西野津 古崎スエノ
大寒や耐えて紅咲く庭椿
西野津 古崎 栄子
たんぼ道芹に出合いて摘みにけり
吉本 高橋 澄子

「雪国」VS「山の音」

法道寺 本田 花風
②そこで、三島由紀夫の「雪国」論の一部を紹介する。

「雪国」の冒頭の汽車の窓ガラスの反映描写を、「川端文学の反現実的な怪しさ」が、この象徴としてかがやいてある」とし、それはあたかも「哲学書の序論」で、「各種の哲学用語」が定義されているように「全篇の序曲」となり、この作品の中における「人物」「風景」「自然」「事件」が何であるかが、「あらかじめ提示され、ひそかに答へ尽くされてある」。そして全篇を読了した後に気づく、その序曲の意味について三島は、作中の人物たち(駒子や葉子)が(不思議な鏡のなかで、夢のからくり)のように眺められる存在で、読者や島村に(悲しみを見えらるといううらさを与えず、作中の風景は夕景色の鏡の非現実的な)の支配下にあり、作中の事件も、火事で葉子が二階から転落しても、汽車の窓に反映した葉子の顔に火が点つたのと同様の、「人間と自然とが継ぎ目なく入りまじる静かな奇跡の瞬間」に他ならないことだと解説している。
また、「放り出すように」突然と川端が(空と山とは調和などしていい)と書いているように、川端の描く自然描写は単なる美しい描写ではないことを三島は指摘しながら、「ディテール(詳細、細部)の「純粹な持続」が読者自らがそれを総合してしまふような作用をもたらす「雪国」を「ユニークな小説」とし、「同時に又、もっとも普遍的な小説なのである」と評している。
徒勞である、無益なことを書き写してしまつた。三島君、もう少しわかりやすく解説してくれよ。
象徴的なところを引用しよう。